

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	姫路市立こども発達支援センター			
○保護者評価実施期間	令和6年8月19日		～	令和6年9月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	52	(回答者数)	50
○従業者評価実施期間	令和6年10月7日		～	令和6年10月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数)	28
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年12月18日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	障害種別に制約されない保育	クラス間交流：次年度のクラス編成を見据え、友達関係や保育室の環境になじみを作ることを目的に実施している。 歳児別活動：クラスの枠組みを外し、同年齢の子どもと過ごす機会を設けている。子どもは友達関係の拡がり、職員は他クラスの子ども理解の場となっている。	コロナ禍で中断していた歳児別活動を再開。経験のない職員も多かったため、手探りの状態での取組となった。今年度の取組をベースに、子どもの情報を共有しより具体的、直接的な関わりが行えるようにしたい。
2	多職種によるチーム支援	職種により異なるが、週1回～月2回程度、クラス担当の療士が保育に参加し、子どもへの支援について共に考え取り組んでいる。また、医療的ケア児も安全に保育に参加できるよう、看護師とも密に連携協力している。子どもの食を上げられるよう、給食部と密に連携し個別配慮された給食提供を行っている。	専門性による視点の違いを認識し、職種それぞれの専門的視点での意見交換を積極的に行い、よりよい支援につなげる。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報発信がうまくできていない	ホームページのレイアウトは、市としての規定に則る必要があるため、裁量は限られている。 個人情報保護の観点から、発信できる情報、方法が限られている。	ホームページに掲載する情報を再検討する（リーフレットのDL、通信の掲載、トピックスなど）
2	事業所としての積極的な地域との交流	コロナ禍で一時中断することとなった行事等については、事業所の利用者の健康を守ることを優先するために、感染状況を確認しながら慎重に再開時期・内容・方法を見極める必要がある。	徐々に緩和、再開しており、今後も地域の保育所園（所管課）とも連携しながら進めていく。 地域の秋祭りや時期を合わせて実施していたイベントは、他のイベントに置き換えて実施することとなった。定着までには時間を要すると思われるが、関係機関に働きかけながら継続する。
3			